A 試合会場レポート

試合番号 013　　開催日 2020/12/19

令和2年度 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会 女子 ファイナルラウンド　　会場： 大田区総合体育館

観客数： 1,021	開始時間： 16:08	終了時間： 17:27	試合時間： 01:19	主審： 明井　寿枝	副審： 北村　友香

JTマーヴェラス

監　督：吉原 知子
コーチ：丹山 禎昭

通　算：－ 勝　－ 敗
ﾎﾟｲﾝﾄ：　－

東レアローズ

監　督：越谷 章
コーチ：高杉 洋平

通　算：－ 勝　－ 敗
ﾎﾟｲﾝﾄ：　－

3	25	第1セット【 00:25 】	21
	25	第2セット【 00:26 】	18
	25	第3セット【 00:22 】	17
		第4セット【　　】	
		第5セット【　　】	
0			

ポイント　－　　【】内はセット時間　　ポイント　－
（）内は交代選手

第1セット

JT			東レ		
25	籾井	芥川 目黒	石川	関	21
	田中 ヒックマン	林	大野 中田	小川	
	小川	ドルーズ	黒後	クラン	
リベロ：	小幡		リベロ：	水杉	

第2セット

JT			東レ		
25	籾井	芥川 目黒	大野 中田	石川	18
	田中	林	黒後	関 白井	
	小川 橘井	ドルーズ	クラン	小川	
リベロ：	小幡		リベロ：	水杉	

第3セット

JT			東レ		
25	籾井	芥川 目黒	石川	関	17
	田中	林	大野 白井	小川	
	小川 橘井	ドルーズ	黒後	クラン	
リベロ：	小幡		リベロ：	水杉	

第4セット

JT			東レ		
リベロ：			リベロ：		

第5セット

JT			東レ		
リベロ：			リベロ：		

＜監督コメント＞

令和2年最後の戦いは、東レ。強力な攻撃力でリーグ戦全勝。私達はチャレンジャーとしてこの大会に臨み、一つ一つの戦いを自分達のメンタル、技術、フィジカルの成長向上を目指した。
今回の優勝は私達を支えて下さった多くの方々と共に勝利を喜び、大会に関わって下さった方、関係者の皆様に感謝しながら、これからもバレーボール発展と向上を目指して頑張っていきます。
本日はありがとうございました。

＜監督コメント＞

今日の試合は序盤から固さが出て、攻撃面、守備の面でもなかなかリズムを作ることが出来ず、苦しい展開となり、修正できないままで、とても悔しい結果となりました。
この結果をしっかりと受け止め、年明けから再開されるリーグ戦へつなげていきたいと思います。
コロナ禍の中、大会を開催いただきました方々、また応援くださいましたファンの皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。引き続きご声援の程よろしくお願いいたします。

＜要約レポート＞

皇后杯決勝は９年ぶりの優勝を目指す東レアローズと、初優勝を目指すＪＴマーヴェラスの対戦。
第１セット、序盤からＪＴは、ドルーズのアタックで連続得点をあげリードする。東レも黒後、クラン、小川のアタックで同点にする。その後何度もＪＴはドルーズのアタックや、芥川のアタック、ブロックでリードするが、東レもクラン、黒後のアタックで追いつくを繰り返し、終盤を迎える。ＪＴは芥川のブロック、林のサービスエースでリードし、最後は田中のアタックでセットを先取する。
第２セット、東レは石川を中心に攻撃を組み立て、小川のサーブなどで点差はつかないが先行して、優位にゲームを進める。ＪＴは中盤、林のアタックを皮切りに、ドルーズのアタック、林、小川、芥川、籾井のブロック、代わって入った橘井のサーブも相手を崩し、７点差をつけてセットを連取する。
第３セット、ＪＴはセットを連取したことで、スタートから波に乗りドルーズのアタックで得点する。東レも黒後、クランのアタックで対抗する。東レは全員で拾って得点につなげようとするが、ドルーズのアタックを止めることが出来ず、ＪＴが徐々にリードする。終盤、ＪＴは田中、橘井のサービスエース、芥川のアタックでリードを広げ、最後はドルーズのアタックでストレート勝利し、初の皇后杯賜杯を手にした。

作成者：高澤　佳江

※本票の著作権は、公益財団法人日本バレーボール協会に帰属します。